

都道府県名	京 都 府
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

京 北 町 立 周 山 中 学 校						
	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	1	8	14
生徒数	75	72	81	2	230	

実践研究の概要

1 研究テーマ

実践的コミュニケーション能力の育成 ～生き生きと英語で伝え合う授業の研究と生徒を伸ばす評価方法の研究～
--

2 内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年（1年～3年）・英語科

自分の考えを言いたがらない、発表の声が小さいなどの生徒の実態から、英語科の少人数授業を生かして、毎時間の聴くこと、話すことを中心とした言語活動の中で、生徒が楽しく自信を持って学習ができるように授業改善を推進することで、生徒の課題克服ができるようになる。

(2) 年次計画

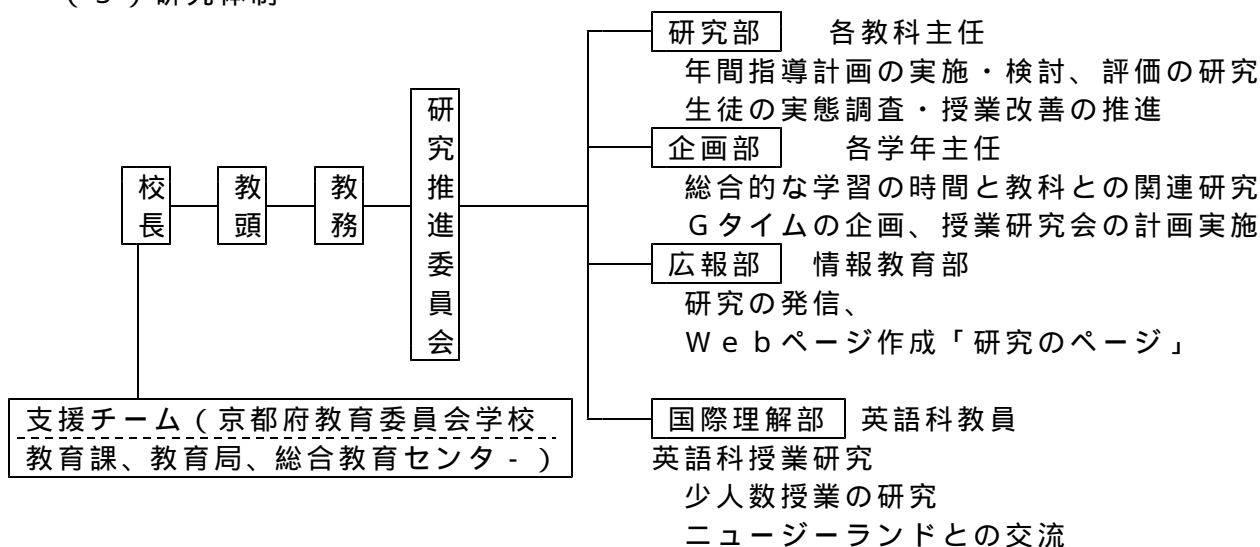
平成14年度	<p>テーマ 実践的コミュニケーション能力の育成 生き生きと英語で伝え合う授業の研究と生徒を伸ばす評価方法の研究 仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を聞くこと・話すことを中心にして、生徒が自信を持って英語を表現できるようになるまで、楽しみながら繰り返し練習できるような言語活動とその指導展開を工夫すれば、生徒の実態における課題を克服できるのではないか。 学習目標や内容、評価の場面と方法を生徒達に明示することで、目指すべき姿、付けるべき力をはっきりさせれば、生徒の力を伸ばし、課題を克服できるのではないか。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導のための指導方法、指導体制の工夫・改善 学習指導要領の趣旨に基づく授業改善の推進、少人数指導、習熟の程度に応じた指導の研究、選択教科の指導、総合的な学習の時間と教科との関連を生かした研究実践 個に応じた指導のための教材、教具の開発 発展的な学習や補足的な学習の教材・教具の研究、情報機器を活用した授業の研究 生徒の学力の評価を生かした指導の改善 評価規準や評価方法等についての研究開発
--------	---

14年度の総括を踏まえ、改善を図りながら研究実践を推進する。 テーマ 実践的コミュニケーション能力の育成
--

平成 15 年度	<p>生き生きと英語で伝え合う授業の研究と生徒を伸ばす評価方法の研究 仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を聞くこと・話すことを中心にして、生徒が自信を持って英語を表現できるようになるまで、楽しみながら繰り返し練習できるように言語活動とその指導展開を工夫すれば、生徒の実態における課題を克服できるのではないか。 ・ 学習目標や内容、評価の場面と方法を生徒達に示すことで、目指す目標、付けるべき力をはっきりさせれば、生徒の力を伸ばし、課題を克服できるのではないか。 ・ 個に応じた指導を追究するために、目標に迫る様々な指導方法や指導体制・指導形態を工夫すれば、更に生徒の力を伸ばしていけるのではないか <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた指導のための指導方法、指導体制の工夫・改善 学習指導要領の趣旨に基づく授業改善の推進、少人数指導、習熟の程度に応じた指導の研究、選択教科の指導、総合的な学習の時間と教科との関連を生かした研究実践 ・ 個に応じた指導のための教材、教具の開発 発展的な学習や補足的な学習の教材・教具の研究、情報機器を活用した授業の研究 ・ 生徒の学力の評価を生かした指導の改善 評価規準や評価方法等についての研究開発
----------------	---

平成 16 年度	<p>14・15年度の2年間の研究実践を踏まえた研究実践の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究テーマ、仮説の検討 ・ 評価についての研究の充実 ・ 英語を中心として全教科における基礎・基本の徹底による学力の充実 についての実践 ・ 指導方法、指導形態の工夫
----------------	--

(3) 研究体制



平成15年度の成果及び課題

1 少人数指導や習熟の程度に応じた指導等、指導方法の研究開発

生徒の実態に則し、「授業をプランし、実行し、反省・改善する」ことを繰り返すことにより、授業改善を進めることができた。
少人数授業を生かし、指導者が意識的に「聞くこと」「話すこと」を中心にした授業を行うことにより、生徒達が授業中に発話する英語の量が増えてきた。
学習集団の編成の工夫と質的向上を図るための研究が必要である。
AETの有効な活用について、各担当教師と日常的に連絡を取り、個々の生徒との会話の時間が十分に確保されるよう効果的な授業展開を工夫する。

2 教材、教具の開発（発展的な学習、補充的な学習の教材づくり）

コミュニケーション活動における基本文を使った言語活動（インタビューゲーム等）を作成したり、個々の生徒の学習の成果を評価するステッカー（Prize）を活用した。
Reading Practice Card、Speaking Test Cardを作成し、生徒が家庭学習や授業前の準備に活用した。
文法レポート課題（2年助動詞、3年現在完了、教科書の言語材料を使った作文レポート等）の取組による家庭学習の習慣化と充実を図った。

3 評価規準や評価方法等についての研究

評価規準を改善し、生徒達に学習目標や学習内容を明示することで生徒がより高い目標を持って努力をするようになった。
自己評価表の工夫と改善を進め、生徒が自らの課題を見つけ、自分自身の目標を持って努力する生徒が増え、積極的に発表できるようになってきた。
単元ごとの評価計画を一層充実させ、評価規準をさらに改善し、指導と評価の一体化を図る。

4 その他の成果・課題

英語科の研究実践を他教科に波及させ、各教科での指導方法の工夫による授業改善を進めることができた。
英語科の教科部会を定例化し授業研究を進めることができた。
各教科部会の活性化を図り、評価の実際について交流し一層の共通理解を図る必要がある。
習熟の程度に応じたグループ編成による指導や選択教科の指導について、評価規準をさらに研究する必要がある。

学力把握のための学校の取組について

生徒の学習に対する意欲や関心の状況を把握するために学習アンケートを実施し、分析結果を指導に生かした。
学力の定着度と客観的な学力を把握するために、国立教育政策研究所作成のテスト、学力診断テストを実施し、分析データをもとに指導方法の工夫や教材・教具の開発・工夫を進めた。

フロンティアスクールとしての成果の普及について

- 1 Web ページによる研究発信
<http://www.syuuzan-j.kyoto-minami.schoolnet.gr.jp>
- 2 授業研究会の実施
1 2月 2日（水） 京都夢・未来校英語研究発表会
2月 24日（火）、26日（木） 京都府学力充実講座で研究発表

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無